

2024年3月研修医通信@紀南病院Vol.138

東京大学医学部附属病院 柳彰典

2か月間お世話になりました。あっという間に過ぎ去ってしまったように感じます。紀南地域の豊かな自然に身を置くと、木々の葉の緑のコントラストが目に入り、鳥のさえずりや川のせせらぎが自然と聞こえ、河原や腐葉土の匂いにひたることが出来ます。都会とは異なり、静謐な自然の中で、自らの五感を研ぎ澄ませることは、診察室での医療行為にも資すると感じました。

紀南地域は多職種、院外施設の人同士が顔なじみであり、風通しが良いと思えました。「看取り」というテーマでいろいろな人が集まり、情報交換をするプロセスは刺激的で、地域のつながりの強さを感じられました。この地域の一体感は、社会的資本といえるものであり、今後も保持いただき、平時・有事に大いに効用を発揮していただきたいです。地域の皆さんと接してみて、「人と人がつながって、課題解決へ共に取り組み悩むことも医療の一面である」と啓発されたような気がしております。

業務については、消防本部、保健所、地域のミーティング、みとりいななど院内外の研修に数多く参加させていただきました。医療が病院内に限定されず、時間的あるいは空間的に院外へ広がっていることを実感いたしました。

指導医の池田昂平先生には温かく、懇切丁寧なご指導をいただき、本当に感謝しております。特に池田先生、看護師さん、検査技師さんおよび医療事務さん達と夜中まで共に従事した救急外来は、得難い経験となりました。また、病院や診療所のスタッフの方々、消防、保健所など、地域の皆さまに温かく迎え入れていただけて、楽しく実り多き研修とすることができました。研修に関わっていただいたすべての皆様、本当に2か月間ありがとうございました。

三重大学医学部附属病院 谷口恵佑

研修医として1年やってきて、最後のひと月。今月は紀南病院へやってきました。カリキュラムの都合上、この1年で6つ目の病院となっております。新しい方たちとの出会いでワクワクしながら待っていました。

最初の難関は下道3時間の通勤でした。前日まで四日市での研修だったため夜中に山を越えて動物たちと戯れながら眠気との戦いでした。ここはなんとか一勝目。勝利をもち取りました。寮についてみると想像しているよりも何倍も広いとてもいい家が待っていました。家につき次第、倒れこむように眠りに落ちました。

そして研修初日、まず案内していただいているときに感じたことは、とにかく挨拶が返ってくる！病院が大きくなればなるほど挨拶が返ってこなくなるので、挨拶が返ってくるだけでもとても気持ちよく仕事ができるので、とてもうれしい環境でした。そして院内からの景色がとてもきれい！リゾート地かなと思うほどの景色に驚きました。最後にびっくり部屋移動がありました。一軒家にグレードアップ！ほぼ使わない部屋でしたが、一軒家の方がはるかに気楽でよかったです。

研修内容としては、初めてこんなに若い先生たちが多く環境で仕事をさせてもらえて、優しいし、質問を聞きやすくやりやすさが段違いでした。救急や病棟で、褥瘡や偽痛風をよく見たのが紀南病院の特徴かなと感じました。そしてこの3月の研修での一番の難関は、部屋での虫との戦いでした。。見事に戦績は2戦2勝！ゴキちゃんとかモちゃんを見事倒し切りました。完勝です。人として一回り成長することができました。感謝。

まだまだやり残したことはありますが、次は8月にお邪魔させていただくので、その時に観光なども含めて楽しめたらと思います！それまでにできる限り成長してきます！

